

ウェブ情報のアーカイブ化の促進 平成16年度予算

平成16年7月30日
総務省情報通信政策局
コンテンツ流通促進室

デジタル時代の知識・文化が結集する貴重な資産であるものの、日々、消去が発生するウェブ情報について、アーカイブ化や利活用を促進するための技術・仕組みの構築・実証実験を実施する。

施策の目的

ウェブ情報を定期的に収集し、時系列に提供するウェブ情報のアーカイブ化やNPO等の様々な主体によるアーカイブ化の促進のためには、

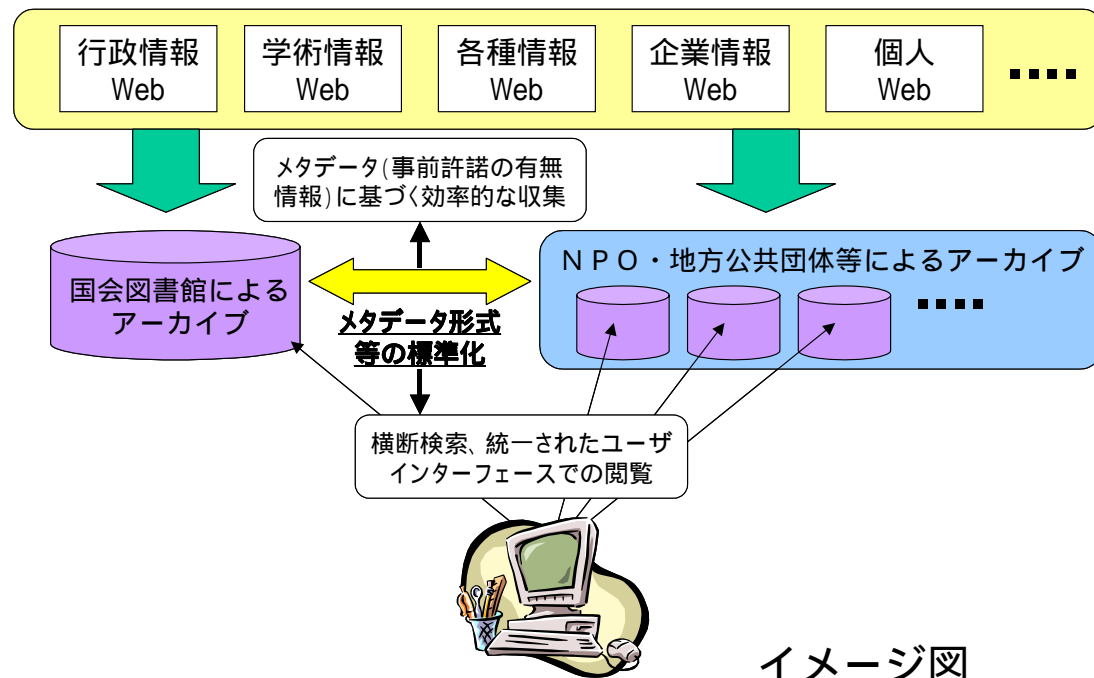
- (1) URLや収集日の情報のメタデータ化等、ウェブ情報の構造化や蓄積
- (2) メタデータに基づく検索・閲覧等の実現
- (3) 標準的な技術・仕組みの構築

が必要

実証実験での検証内容

国立国会図書館と連携しつつ、以下の内容を検討・実施

- (1) ウェブ情報を収集・保存するためのメタデータ等の確立
- (2) 収集した情報を保護しつつ利用するための課題の検討・整理
- (3) アーカイブ間の連携・横断検索のための標準的技術の実証



【平成16年度予算額 255百万円(新規)】

国立国会図書館

電子雑誌やその他、必要・有用と認められるものを選択的に収集することについての検討。

H14年度～

ウェブ情報の選択的蓄積実験
国立国会図書館として行うべき国内のネットワーク系電子情報(電子雑誌など)の収集・蓄積・保存・提供のあり方

- ・国立国会図書館として収集する範囲・方法の確定
- ・国立国会図書館として必要となるアーカイブ機能及び提供機能

ウェブアーカイブ構築の課題
ウェブサイト作成者の許諾処理等に膨大な手間・コストがかかる等の課題

総務省

今後、地方公共団体やNPO等様々な主体によってもウェブアーカイブの構築がなされることが想定。

ウェブ情報のアーカイブ化や収集した情報を権利保護しつつ活用するための汎用的技術等について検討。

H16年度～

ウェブ情報の収集・利用実証実験
ウェブ情報を効率的に収集・保存するためのメタデータ等の確立
収集した情報を保護しつつ利用するための課題の検討・整理
アーカイブ間の連携・横断検索のための標準的技術の実証

技術的課題への対応が必須

(参考) 各国の主要ウェブアーカイブ関連プロジェクト例

国名	機関	情報収集手法(注)	情報収集対象	公開方法	著作権保護への対応
米国	インターネット・アーカイブ(NPO)	バルク収集	公開されている全てが対象だが、バルク収集拒否サイトについては対象外。	ネット上で公開	登録の削除要求があれば対応
米国	議会図書館	選択収集 バルク収集	職員選定サイト、特定サイトを選択収集。またそれらのリンク先サイトをインターネットアーカイブと連携してバルク収集。	館内のみ	選択の段階で著作権者の同意
フランス	国立図書館	選択収集(実験中) バルク収集(実験中)	「.fr」ドメインサイト及び国内住所登録サイトをバルク収集。パスワードが必要なサイト等についても選択収集。	非公開	実験を通して検討中
スウェーデン	王立図書館	バルク収集	「.se」ドメインサイト及び国内住所登録サイトをバルク収集。	館内のみ	法令において、ウェブアーカイブに対する権利処理が規程
デンマーク	王立図書館	選択収集 バルク収集(実験中)	ウェブ上の論文・報告書の選択収集。「.dk」ドメインサイトのバルク収集を実験的に実施。	館内のみ	選択の段階で著作権者の同意
オーストラリア	国立図書館	選択収集	自国文化を代表するサイトに関する基準を満たすサイトを選択収集。	ネット上で公開	選択の段階で著作権者の同意

(注) バルク収集：自動収集ソフトウェアによるウェブ情報の一括収集。大規模なアーカイブ構築が可能。

選択収集：手作業によるウェブ情報の選択的な収集。精度の高いアーカイブ構築が可能。